令和７年度学校評価（最終）　　学校名（宮島小・中学校）

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	中間 8月	最終 2月	達成度	評価	結果と課題の分析		
小中一貫教育のよさを最大限に生かす学校運営	◎4・3・2制のメリットを生かして、9年間で育てる。	コミュニケーション能力(助け合い・認め合い・支え合い)を育成するために、ブロック活動を充実させる。	「ブロック目標を達成することができた。」と答えた学園生の割合(4・7・9年) 「ブロック目標を達成しようと意識することができた。」と答えた学園生の割合 (1・2・3・5・6・8年)	85%	【前期】 89.7% 【中期】 95.1% 【後期】 78.5%	【前期】 89.7% 【中期】 88. 6% 【後期】 82.9%	【前期】 106% 【中期】 104% 【後期】 98%	【前期】 A 【中期】 A 【後期】 B	【前期】 ・学年で決めた挨拶目標・助け合いを視点にした日々の振り返りにより、ブロック目標を意識して生活できた。また、ブロックのレクや異学年交流後の振り返り・お礼の手紙により、自学年の役割を知ったり、上級学年への憧れをもったりすることができた。 【中期】 ・「なるほどタイム」等の表現力を高める取組を行ったところ、自分の考えを周りの人にわかりやすく伝えようとしているという生徒の割合が 93.2%となり、相手を意識して自分の考えを述べることが定着してきていると思われる。 【後期】 ・お互いの良さに気づく取組や、みんなで協力して行事に取り組むことにより、ブロック目標を意識して生活できた。また、ブロック朝会での異学年交流や、生徒会活動を通じて、学校全体のリーダーとしての自覚を育てることができた。	・参観日の様子から児童生徒の心に温かさや共感、傾聴の姿勢があると感じた。それが一人一人の安心感につながり、多様な児童生徒がいる中、学校がいい育ちの場になっているのではないかと感じる。 ・児童生徒に関わる大人、一番身近な存在として、先生方には地域のことなどに興味を持って取り組んでもらいたい。その姿勢によって、児童生徒の成長も変わってくる。	【前期】 ・4年生が主体的に活動できるよう、朝会やブロック合唱に取り組んだことでリーダーの役割への達成感や上級生への憧れをもつことができた。相互評価を大切にし、互いのよさに気付く振り返りを継続していく。 【中期】 ・各活動において児童生徒同士が互いのよさに気づき合えるよう、振り返りの場面を効果的に設定していく。 【後期】 ・9年生が今年度行ったよい取組を土台として、8年生が来年度、学園のリーダーとして活躍できるよう取組を進めていく。
			課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査生徒質問紙)	85%	78.2%	－	92%	B			
地域の財産(歴史、文化、自然)を学ぶ教育体系の確立	◎自己の将来、宮島の将来を考える力を育てる。	主体的・協働的に課題を解決していける児童生徒の育成を目指し、対話を通して考えを深めさせ、自分の考えを表現できる力を育てるための校内研究の充実を図る。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と答えた学園生の割合	83%	86.2%	86.2%	104%	A	・表現力向上を目指し、児童生徒の発達段階に応じて、各教科の特性を活かした授業を行うことができた。その結果、スピーチ発表や話し合い、スライド・ポスター制作などを通して自分の考えや気持ち、またその理由などを伝え、互いに深めたり広げたりすることができた。また、宮島の地域を活かした課題を設定することにより、児童生徒に興味関心を持たせることもできた。さらに、教師自身も目標や目的がはっきりとした状態で授業を行うことができたため、今後の授業改善につなげていく。	・宮島の地域学習を通して、大切な価値観や畏敬の念、思いやりの心を育んでいってほしい。 ・宮島のよさとは何かを児童生徒が自分で考え、それをいろいろな人に伝えてほしいと思う。	・引き続き、児童生徒の興味関心を持たせられる課題設定をすることを心がけ、言語活動を通してさらなる表現力の向上を目指していく必要がある。また、校内研究授業を行い、教師自身の授業力の向上につなげる。
			「自分の考えを周りの人へわかりやすく伝えようとしている。」と答えた学園生の割合	83%	89.5%	89.2%	107%	A			
多様な学園生の育ちの場の提供	基本的な生活習慣(あいさつ)の確立をさせる。	発達段階に応じた行動目標を児童生徒に提示し、その姿を日々評価する。	「あいさつは、自分から進んでします。」と答えている学園生の割合	90%	89.9%	88.5%	98%	B	・あいさつに関する学園生の肯定的評価は第1回アンケートと比較して 1.4 ポイント減少し 88.5%であった。肯定的評価は中期生が最も高く 90.9%、後期生が 88.6%、前期生が 87%であった。一方、保護者アンケートでは子どもは進んであいさつしているという肯定的評価は 87.3%で、第1回アンケートよりも 2.4 ポイント上昇した。 ・宮島学園を安心して過ごせる場所であると肯定的な評価をしている学園生の割合は 94.6%で、第1回アンケートと比較して 0.3 ポイント上昇した。	・子どもの挨拶が減っていると感じる。一方、自分のことばで話ができる子が増えているので、それが挨拶にもつながってくるといい。 ・子どもの挨拶をよくするには、大人の姿勢が大切である。日々、お手本となる挨拶の姿勢を見せていくべきである。	・学園生が進んであいさつできるよう発達段階に応じて指導していく。 ・日々、学園生の様子をよく見て、人間関係やトラブルの有無等の小さな不安の芽を見逃さず、相談しやすい環境づくりを継続していく。
	多様な価値を受け入れ、認め合える集団をつくる。	学園生の特性に応じた支援について外部の専門家と意見交換し、内容や支援方針を全教職員で共通理解する。	「宮島学園は、安心して過ごすことができる学校です。」と感じている学園生の割合	90%	94.3%	94.6%	105%	A			
ワークライフバランスのとれた元気な職場	目的やスケジュールを意識することで、組織的な取組を実施する。	目標達成に向け、行事のスケジュールを意識し企画運営委員会、分掌会及びブロック会を計画的に実施し、状況を共有する。	タイムマネジメントを意識することで、「子どもと向き合う時間が確保できている」と感じている教職員の割合	70%	68.2%	83.3%	119%	A	・互いに助け合おうとする雰囲気の中、教職員間の連携が進んだことで、結果的に子どもと向き合う時間が増えたと感じる教職員が多くなったと考える。今後もこの良い流れを大切にし、子どもとの関わりをさらに深めていけるよう努めていきたい。 ・「宮島学園で働いてよかった」という項目で 87.5%の肯定的な評価が得られたが、目標値を下回る結果となった。	・宮島は地域行事が多く、できるだけ先生方にも参加していただきたいが、先生方のワークライフバランスとの兼ね合いを考えると難しい部分もある。地域行事への参加の代休が取得できるなど、何かいい案がないだろうか。	・来年度に向けて、引き続き、企画委員会をはじめとする会議を計画的に実施してスケジュール管理をするとともに、困り感を相談したり、互いに協力し合ったりする場面を設定して働きやすい職場づくりを目指していく。
			「宮島学園で働いてよかった」と感じている教職員の割合	90%	87.5%	87.5%	97%	B			